

第2章

健康市民おかやま21（第2次） 中間評価の概要

中間評価の概要

1 健康市民おかやま21（第2次）の中間評価の概要

「健康市民おかやま21（第2次）」のこれまでの取組を評価し、平成30（2018）年度からの活動に反映させることを目的として、市民、専門家、公民館職員、保険者、学識経験者らで構成した「健康市民おかやま21活動評価部会」において、平成27年度から平成29年度にかけて、活動の評価と共に、種々なデータをもとに中間評価を行いました。

（1）健康市民おかやま21（第2次）の評価の方法

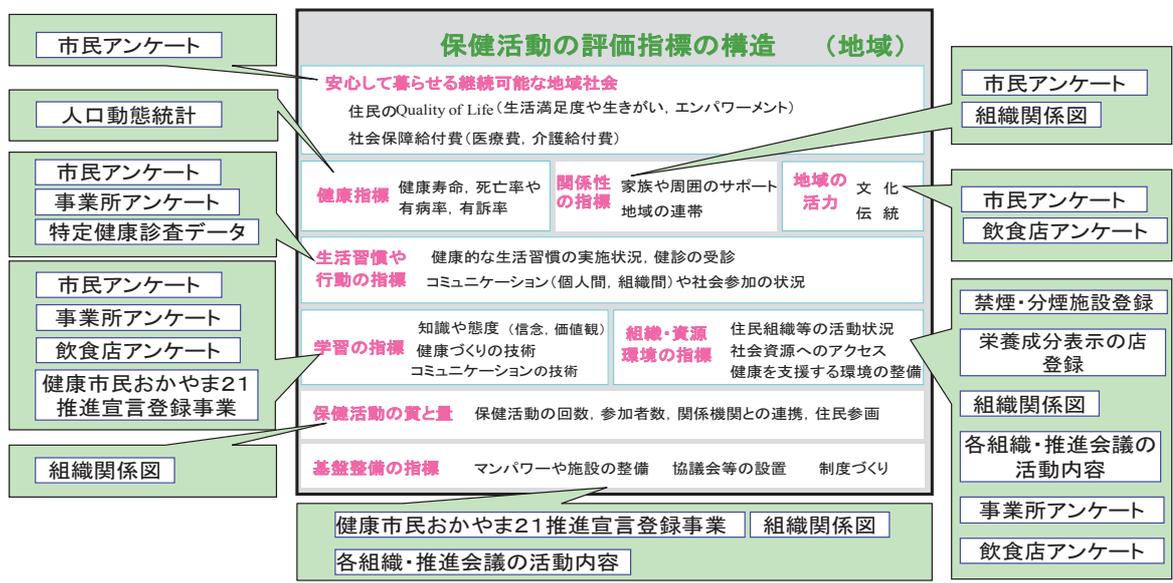
1）評価の枠組み

上位目標である「1 健康を自覚できる人の増加、健やかな暮らしを支える社会環境の実現に関する目標」の評価、そして「2 ライフステージに応じた健康づくりの推進に関する目標」の評価、「3 6分野の健康づくり（栄養・食生活、身体活動・運動、こころ・休養、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康）及び生活習慣病への対策に関する目標」の評価、最後に「4 市民、企業、専門団体、地区組織、ヘルスポランティア、公民館、学校園などとの連携による健康づくりの推進に関する目標」の評価を行いました。

評価にあたっては、上記の内容の評価が出来るよう、結果（アウトカム）の評価だけでなく、これまでの取組の経過（プロセス）やその影響（インパクト）を評価する様々な指標を用いて評価を行いました。

2) 評価指標 指標の構造

健康市民おかやま21(第2次)の評価指標を「保健活動の評価指標の構造」※にあてはめたもの



※「ここまで進んだ健康日本21の推進(市町村版)」より引用

健康市民おかやま21（第2次）の評価に使用するデータを、保健活動の評価指標の構造※にあてはめて、どの指標として使用するかをあらわしたものです。既存のデータや、新たに得たデータを利用して、すべての指標を網羅できるようにしました。

(2) 健康市民おかやま21 (第2次) 中間評価結果

総合的な評価では、「A:目標値に達した」及び「B:目標値に達していないが、改善傾向にある」の割合は、51.5%となり、おおむね改善している状況でした。

《目標項目評価結果：策定時の値と直近値を比較》

	大項目	中項目	小項目	評価					合計
				A	B	C	D	E	
				目標値に達した	目標値に達していないが、改善傾向にある	変わらない	悪化している	設定した指標または把握方法が異なるため評価困難 ^{※1}	
計				31	36	41	22	14	144
1	健康を自覚できる人の増加、健やかな暮らしを支える社会環境の実現に関する目標	-	-	4	0	4	0	2	10
2	ライフステージに応じた健康づくりの推進に関する目標	(1) 次世代の健康	-	2	5	4	1	0	12
		(2) 青壮年期の健康	-	0	2	2	3	1	8
		(3) 高齢期の健康	-	3	1	2	3	1	10
3	6分野の健康づくり（栄養・食生活、身体活動・運動、こころ・休養、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康）及び生活習慣病への対策に関する目標	(1) 6分野の健康づくり	1) 栄養・食生活	1	2	6	6	2	17
			2) 身体活動・運動	3	0	2	2	1	8
			3) こころ・休養	3	0	1	2	2	8
			4) 飲酒	0	4	4	0	0	8
			5) 喫煙	0	8	2	0	5	15
			6) 歯・口腔の健康	1	5	3	1	0	10
		(2) 生活習慣病への対策	1) がん	4	3	2	0	0	9
			2) 循環器疾患	3	2	5	0	0	10
			3) 糖尿病	0	2	1	2	0	5
4	市民、企業、専門団体、地区組織、ヘルスポランティア、公民館、学校園などとの連携による健康づくりの推進に関する目標	-	-	7	2	3	2	0	14

※1 評価困難：策定時に目標設定していたが、中間評価において評価できる指標がないものなど

図1 健康市民おかやま21（第2次）中間評価時点における目標値の達成状況（E評価を除く130評価項目）

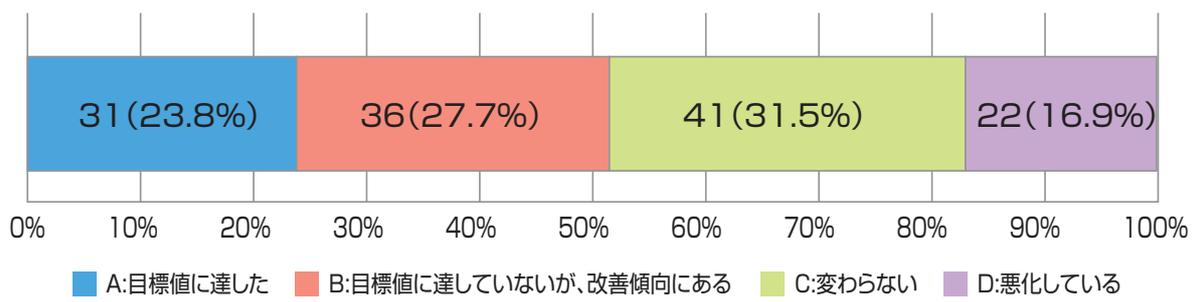
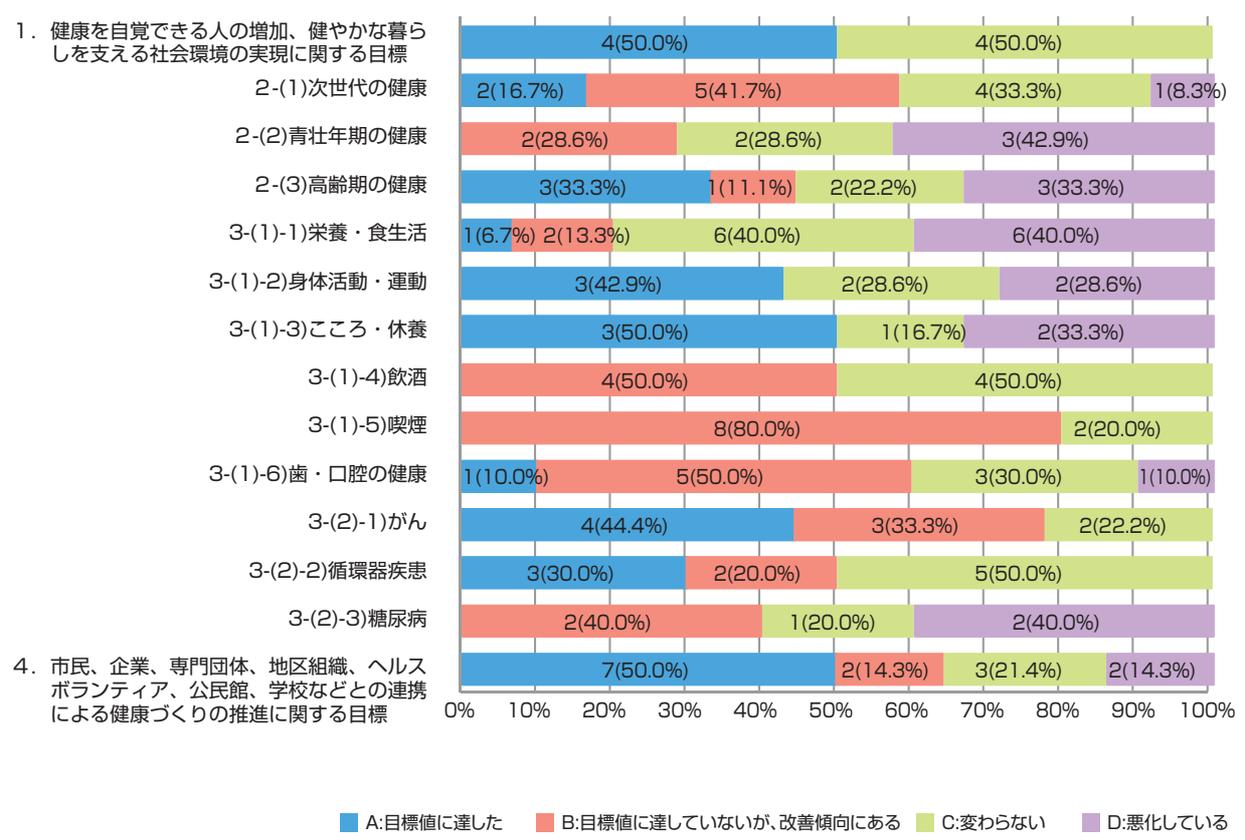


図2 健康市民おかやま21（第2次）中間評価時点における各目標値の達成状況の内訳（E評価を除く130評価項目）



《各目標の中間評価時点における達成状況》

1) 健康を自覚できる人の増加、健やかな暮らしを支える社会環境の実現に関する目標の評価結果

計画の中で上位目標としていた「健康を自覚できる人の増加」については81.3%であり、また「健康寿命の延伸」については、男女共に65歳における平均余命の伸びを上回る平均自立期間となっており、健康寿命は延びてきていました。さらに「人を信頼できる人の増加」でも62.3%で、目標値を達成しており、A評価で50.0%、C評価で50.0%を占めており、D評価の「悪化している」目標項目はありませんでした。

今後も、「健康を自覚できる人の増加」、「健康寿命の延伸」をめざし、「栄養・食生活」、「身体活動・運動」、「生きがい（社会参加）」の三本柱とし、ソーシャルキャピタルの醸成を図ります。

2) ライフステージに応じた健康づくりの推進に関する目標の評価結果

●次世代の健康

運動面で目標値を達成しているものの、朝食の摂取に関しては、小学生において減少していました。

●青壮年期の健康

目標値を達成している項目がなく、「適正体重を維持している（肥満（BMI25以上）、やせ（BMI18.5未満）の減少）」といった項目で、D評価の割合が高くなっていました。

●高齢期の健康

「75歳以上の低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の増加の抑制」、「歯の喪失防止（60歳以上で24本以上の自分の歯を有する人の割合の増加）」といった項目でA評価となり、D評価となったのは「65歳～74歳までの低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の増加の抑制」および「足腰で痛みのある高齢者の割合の減少：女性」でした。

改善している項目もあるものの、「青壮年期」における適正体重の維持については、その後の生活習慣病への対策にも繋がるため、今後も取り組む必要があると考えます。

3) 6分野の健康づくり（栄養・食生活、身体活動・運動、こころ・休養、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康）及び生活習慣病への対策（がん、循環器疾患、糖尿病）に関する目標の評価結果

目標値達成もしくは改善している項目が80項目（E評価を除く）中41項目（51.2%）であり、50%以上となった目標項目は、「こころ・休養」、「飲酒」、「喫煙」、「歯・口腔の健康」、「がん」、「循環器疾患」でした。

「栄養・食生活」、「身体活動・運動」の項目では、これからも引き続き、よりよい生活習慣が自然と身につく環境整備とともに取り組む必要があります。

4) 市民、企業、専門団体、地区組織、ヘルスボランティア、公民館、学校園などの連携による健康づくりの推進に関する目標の評価結果

国の策定する「健康日本21（第2次）」の基本的な方向には、「地域や社会の絆、職場の支援などが機能することにより、社会全体が相互に支え合いながら、国民の健康を守るための環境を整備すべきである」と明記されています。この方向は岡山市のこれまでの取組と合致しており、着実に推進しています。

この健康づくりの推進における活動を通じて、「健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている市民・企業・組織団体などの割合」は増加しており、また、「組織間のネットワーク数の増加及び強化」も図られています。

これらの取組により培われた、地域の健康課題を主体的に考え、取り組むことができる人材育成と組織間のネットワーク形成によって、「地域包括ケアシステム」の構築にも寄与しており、今後も活動が期待されます。

※ 「地域包括ケアシステム」とは…

高齢者が可能な限り、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が一体的・包括的に確保される体制

地域での推進体制の整備

保健センターエリアごとの6か所の推進会議だけでなく、より住民に身近な小単位の組織づくりを目指し、中学校区単位27か所、小学校区単位21か所に推進組織が出来ました。

		保健センター エリア	中学校区	小学校区
平成15年度	策定時	6	6	1
平成19年度	中間評価時	6	15	4
平成24年度	最終評価・第2次策定時	6	21	11
平成29年度	第2次中間評価時	6	27	21

地域のネットワークの広がり

従来、地域で複数の組織・団体が連携して健康づくりへの取組が活発に行なわれましたが、平成27年度に取り組んだ「ええとこ発見図」の作成を通じて、さらに地域のネットワークが広がり、強化されました。地区組織や21推進組織だけでなく、新たに企業や学校との連携ができた地域も一部あり、地域差がみられました。

については、目標項目1や4に現れた

D:悪化している

	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている児童・生徒の割合の増加(小学生) 	<p><栄養・食生活> 朝食の摂取を促すには、保護者への働きかけの検討が必要 青壮年期の適正体重の維持などは、就業者の増加を踏まえてライフスタイルに応じたアプローチ・情報提供が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○適正体重を維持している人の増加 ○管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合の増加 	
<ul style="list-style-type: none"> ○65歳～74歳までの低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の増加の抑制 	<p><身体活動・運動> 若い年代では定期的な運動習慣を持っている人が増加しているが、日常的に体を動かす習慣としては、全国的にも少ない傾向にあるため、ライフスタイルに応じた運動習慣を持てるような対策が必要 65歳以上の男女に対しては、ロコモ予防も見据えた対策が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている児童・生徒の割合の増加(小学生) ○適正体重を維持している人の増加 ○食塩を控えている人の増加 ○家族や友人と共に食事をする人の割合の増加 	
<ul style="list-style-type: none"> ○運動習慣者の割合の増加(65歳以上男女で減少) 	
<ul style="list-style-type: none"> ○管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合の増加 ○睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少 	<p>相談できる人や相談できる場所がある人の増加</p>
	<p>飲酒に対する正しい知識の普及を継続</p>
	<p>やめたい人が禁煙できるよう支援 受動喫煙を減らす環境づくり</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加 	<p>口腔機能の維持・向上 幼児期からの口腔機能の健全な育成 う蝕と歯周病の予防</p>
	<p>がん検診受診率の向上 予防に対する知識の普及</p>
	<p>血圧や体重の自己管理、野菜摂取や減塩に関する知識の普及 ハイリスクアプローチ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○合併症(年間新規腎透析導入患者数)の減少 ○糖尿病有病者の増加の抑制 	<p>肥満者に対するハイリスクアプローチ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会があるある事業所の割合の増加 ○朝食を毎日食べている児童・生徒の割合の増加(小学生) 	<p>広がり強化を視点に活動を継続</p>

60%

80%

100%